



川島町男女共同参画に関する意識・実態調査 報告書

この報告書は、「川島町男女共同参画に関する意識・実態調査」の結果をとりまとめたものです。調査は、男女平等の視点から、川島町における男女共同参画に関する町民意識と生活実態について把握し、今後の町の施策に反映させることを目的として実施しました。

調査の実施概要

1 調査の設計

調査対象 川島町在住の満 18 歳以上の男女
標本数 1,800 人（男性：912 人 女性：888 人）
抽出方法 無作為抽出による標本調査、郵送により配付・回収
調査期間 平成 28 年 9 月 9 日（金）～9 月 30 日（金）

※ 図表中の「n」は回答者数で、グラフの数値はすべて回答者数を基数とした比率（%）です。小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。複数回答できる質問では、合計が 100%を超えます。

2 回収結果

	標 本 数	有効回収数	有効回収率
女 性	888 人	303 人	34.1%
男 性	912 人	237 人	26.0%
未 回 答 (無回答)	-	5 人	-
総 数	1,800 人	550 人	30.6%

3 回答者のプロフィール

<性別> (%)

	n	女 性	男 性	未 回 答	(無回答)
全体	550	55.1	43.1	0.9	0.9

<年齢別> (%)

	n	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答
全体	550	1.5	8.4	20.9	21.5	14.9	29.6	2.5	0.7
女性	303	2.0	7.9	24.4	19.8	15.5	28.4	2.0	0
男性	237	0.8	9.3	16.5	23.6	14.8	31.6	3.4	0
性別不明	10	0	0	0	0	0	2	0	8

<職業別> (%)

	n	会社員・ 団体職員	自由業・ 自 営 業	パート・ アルバイト	公務員・ 教 職 員	家事専業	学 生	無 職	その他	無回答
全体	550	34.1	8.2	18.3	6.5	15.0	3.1	11.8	2.0	1.1
女性	303	21.1	5.0	27.7	4.3	27.4	4.0	7.3	2.6	0.7
男性	237	51.5	12.2	5.9	9.7	0	1.7	17.7	1.3	0
性別不明	10	2	1	3	0	0	0	0	0	4

<同居家族の構成>

(%)

	n	単身世帯	1世代世帯	2世代世帯	3世代世帯	その他	無回答
全体	550	4.5	24.0	52.7	15.1	2.7	0.9
女性	303	2.3	23.1	53.1	17.8	3.3	0.3
男性	237	7.6	25.3	52.7	12.2	2.1	0
性別不明	10	0	2	4	0	0	4

<結婚状況>

(%)

	n	結婚していない	結婚している	結婚していたが、 離別・死別した	無回答
全体	550	26.2	69.1	4.0	0.7
女性	303	22.4	72.9	4.6	0
男性	237	31.6	65.0	3.4	0
性別不明	10	1	5	0	4

<子供の有無>

(%)

	n	いない	いる	無回答
全体	550	30.7	67.1	2.2
女性	303	27.4	71.9	0.7
男性	237	35.0	62.4	2.5
性別不明	10	3	3	4

<一番下の子供の属性>

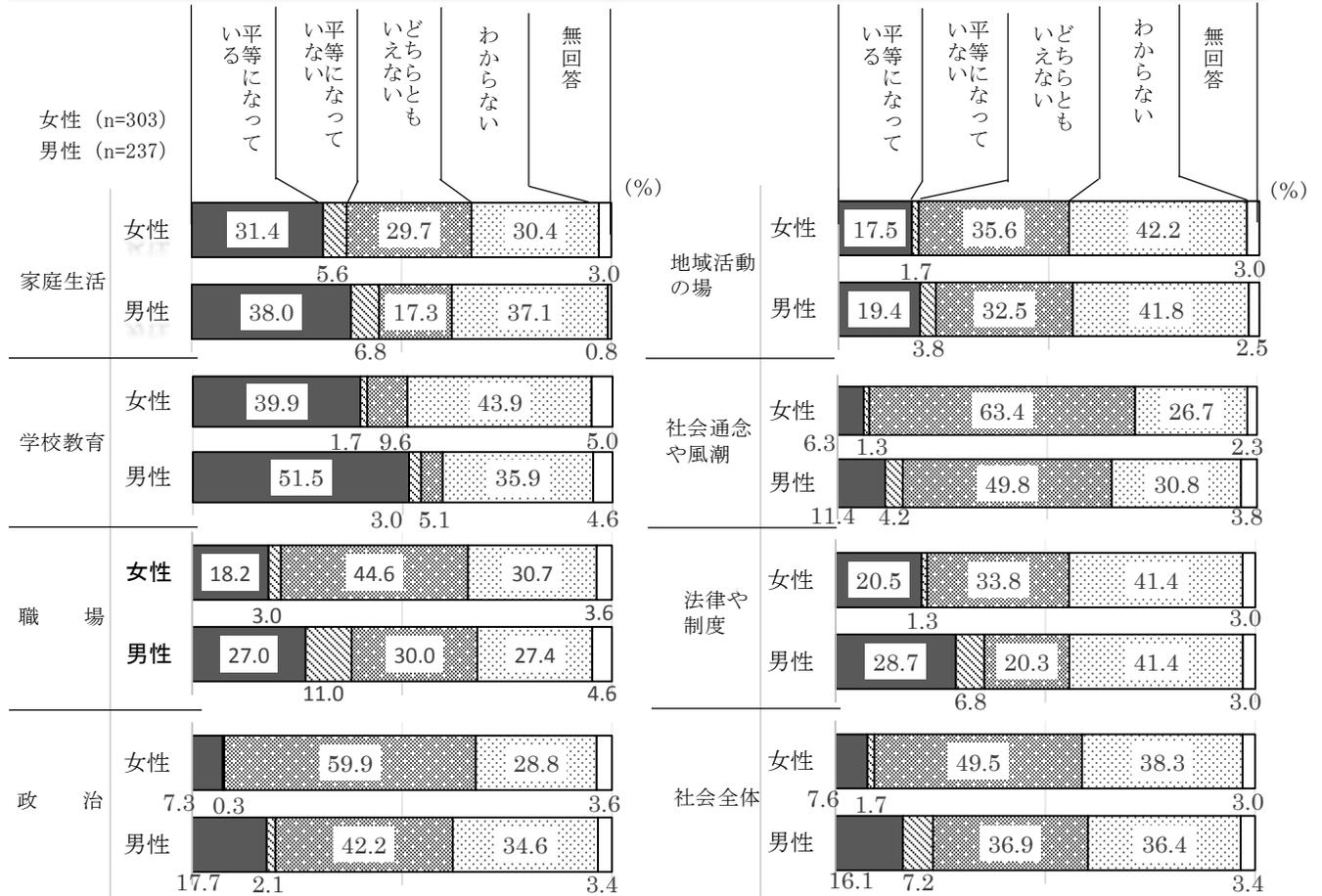
(%)

	n	3歳未満	3歳以上 就学前	小学生	中学生	高校生	大学生 大学院生	社会人	その他	無回答
全体	370	10.3	11.9	10.5	4.3	0.5	9.7	48.1	3.8	0.8
女性	215	10.2	13.0	11.6	3.7	0	9.8	45.6	5.6	0.5
男性	150	10.0	10.7	9.3	5.3	1.3	9.3	52.0	1.3	0.7
性別不明	4	3	0	0	0	0	0	5	0	3

1 男女平等に関する意識について

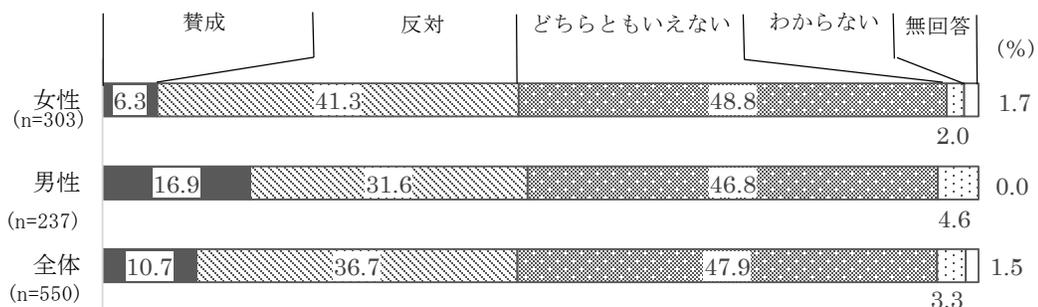
1 男女の地位の平等感

【家庭生活】、【職場】、【法律や制度】、【社会全体】では不平等感が強くなっています。すべての分野において、男性の方が「平等になっている」の回答が高く、男女の平等についての意識の差がうかがえます。

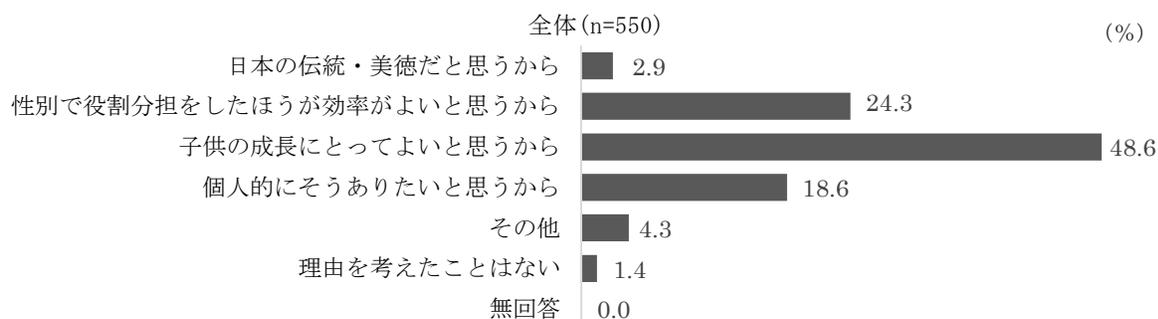


2 性別役割分担意識

<男は仕事、女は家庭>という考えは、「反対」は女性で4割に対し、男性では3割となっています。一方、「賛成」の男性は、女性の倍以上となっています。



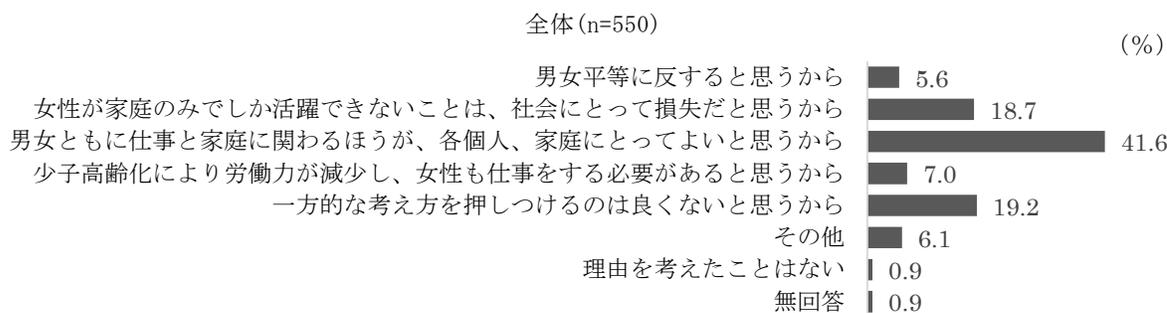
<賛成の理由>



【その他】を選択した方の意見

- ・少子化<税、社会保障等>を考えると、女性の社会進出が必ずしも100%良いとは思えないため（強いて言えば、賛成）。
- ・仕事をする事はいいと思うけど、家庭を守っての仕事であることを忘れないでほしい。
- ・男、女としてではなく、個人として各々にふさわしい場所があると思うから。
- ・主夫希望だから。
- ・夫婦のどちらかの能力・経済力がある方が働いてやっていけるなら、別に男が専業主夫としてやっても…と思うから。

<反対の理由>



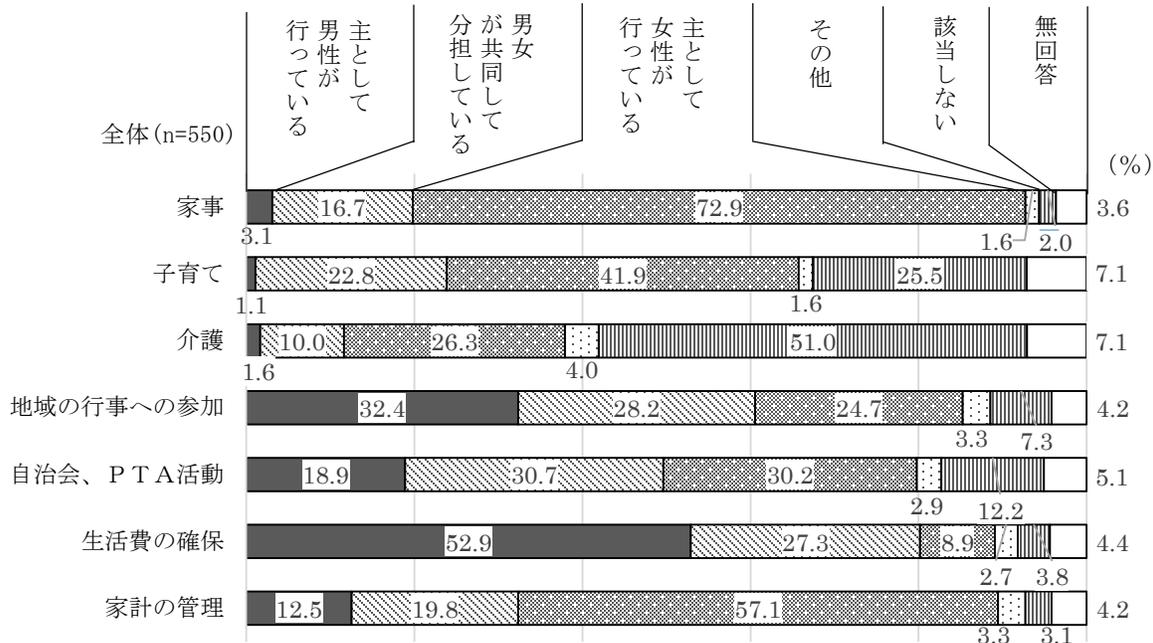
【その他】を選択した方の意見

- ・自分も家族の為に働きたいと思うから。
- ・逆でもいいと思うから。
- ・女だって男と同じぐらい稼げるし、亭主関白とかいう古い考えが嫌だから。
- ・各々の特性を活かす意味の言葉だと思うが、断定的な考え方だと思う。
- ・選択肢「一方的な考え方を押しつけるのは良くないと思うから」と似ていますが、各個人が自分の希望に基づいて、選択できると良いと思う。
- ・仕事と家庭のバランスは、性別によってではなく、各個人の価値観や環境・適性で自由に選べるべきだと思うから。
- ・その家庭家庭で事情が異なり、特に決めつけることではないため。

2 家庭生活・子育てについて

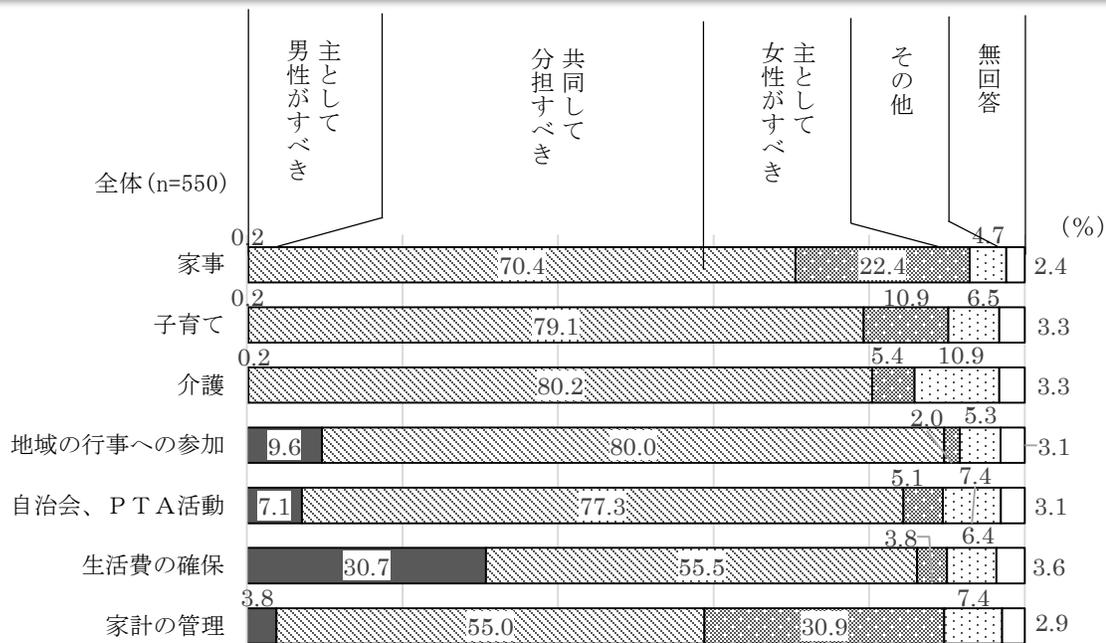
1 家庭生活での役割分担<現実>

7つの分野についての家庭における役割分担は【地域活動】【生活費の確保】は男女ともに「主として男性」が高くなっています。【家事】、【子育て】、【介護】、【家計の管理】は、「主として女性」が高くなっています。



2 家庭生活での役割分担<理想>

7つの分野において、「共同して分担すべき」が最も高くなっています。

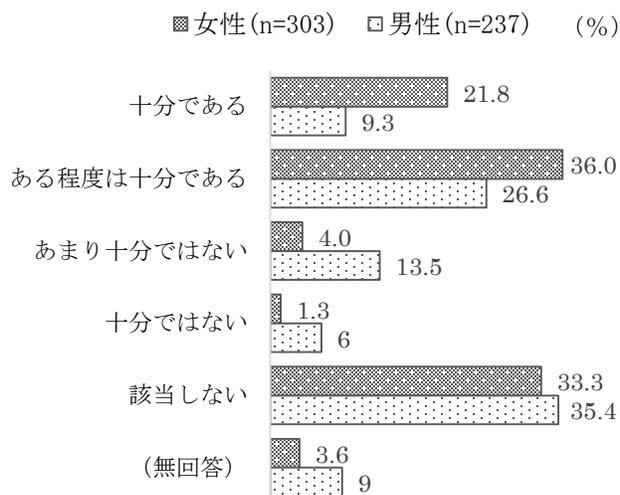


3 子育てへのかかわり

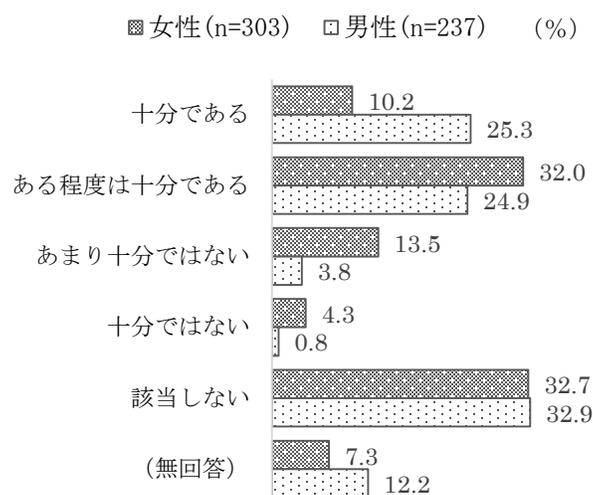
男女とも【本人】【配偶者・パートナー】の子育てのかかわりについて、＜十分である＞＜ある程度は十分である＞の合計が、＜あまり十分ではない＞＜十分ではない＞の合計を上回っています。

子育てへのかかわりが十分でない原因は、男女とも「仕事が忙しすぎるため」が最も高くなっています。

【本人】

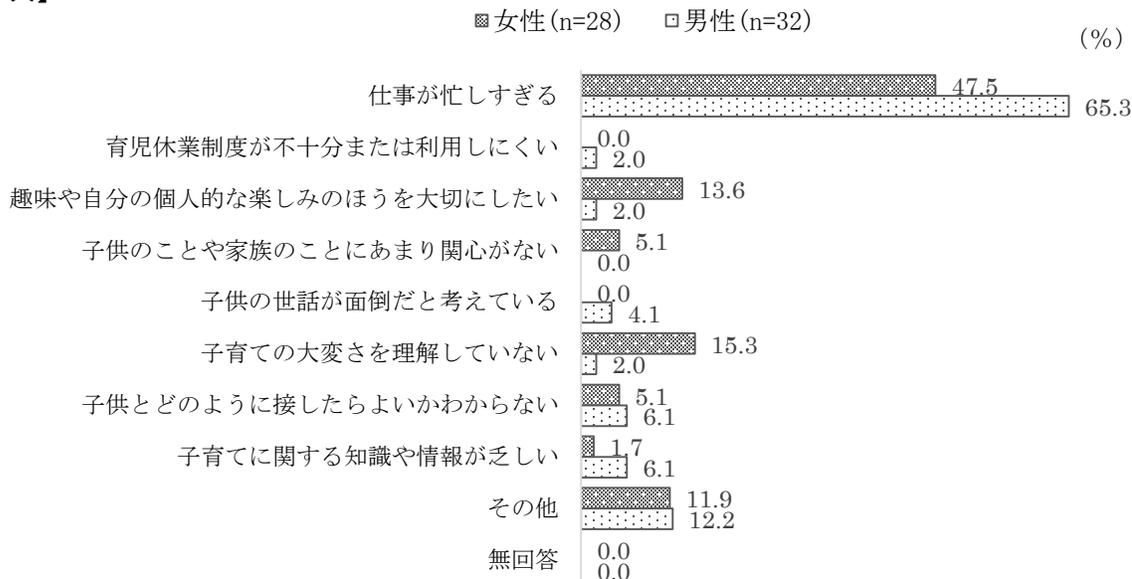


【配偶者・パートナー】



＜子育てへのかかわりが十分でない原因＞

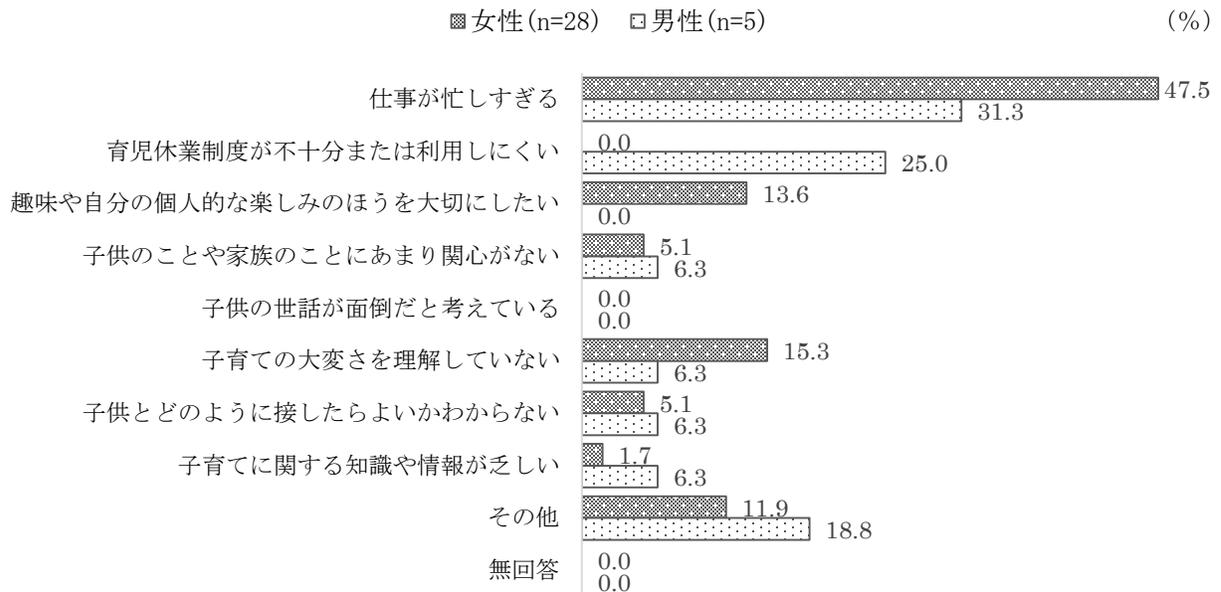
【本人】



【その他】を選択した方の意見

- ・地域柄、年寄りの意見が強すぎるため。
- ・病気のため。
- ・単身赴任中のため。
- ・介入したいが、パートナーが不機嫌になるので、頼ってきたときに関わる。
- ・子育ては終わり社会人のため、自分たちで生活できればいい。
- ・会社が遠く、朝早く帰りが遅かった。土・日曜日は世話をした。
- ・幼少期の情操教育は、主に母親が適任と考えるため。

【配偶者・パートナー】



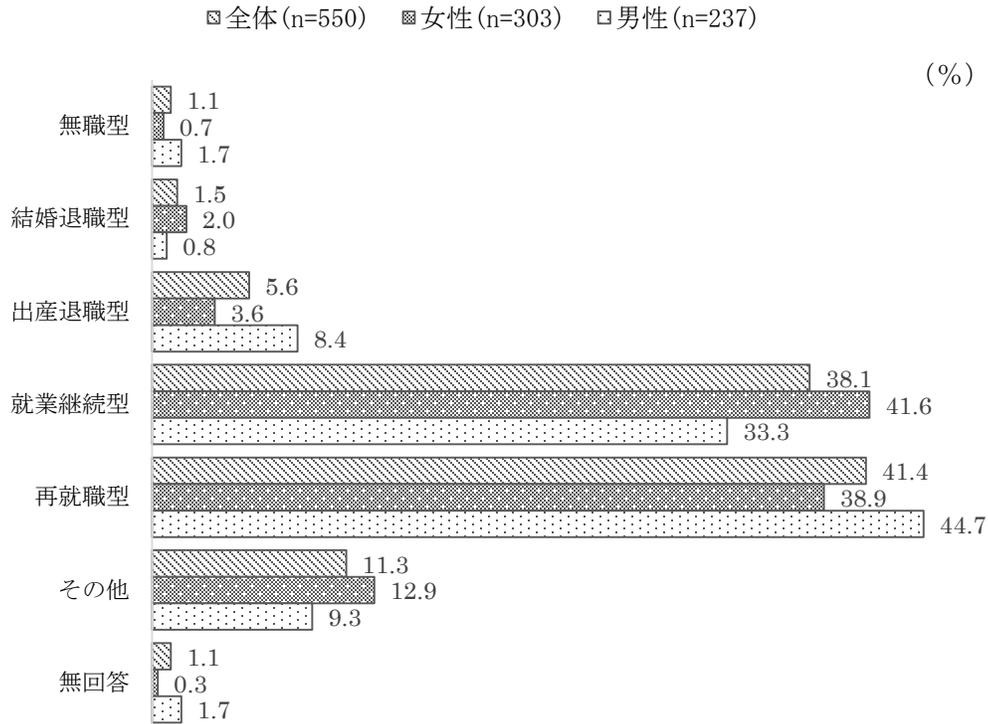
【その他】を選択した方の意見

- ・女がやるものだと思っている。
- ・育った環境からの考え方。
- ・単身赴任中のため。
- ・育児は女がするものだと思っているため。
- ・妻は保育（公立）で仕事をしていて帰りが遅く、自分の給料だけでは生計を維持することができないため、子供が犠牲になっている。保育の仕事を見直してほしい。
- ・実子でないため。

3 男女の就業・仕事について

1 女性の働き方の理想

男女ともに、【子供ができて、ずっと職業をもち続けた方がよい】、【子供ができたなら辞めるが、子供が成長したら再び職業をもつ方がよい】が高くなっています。



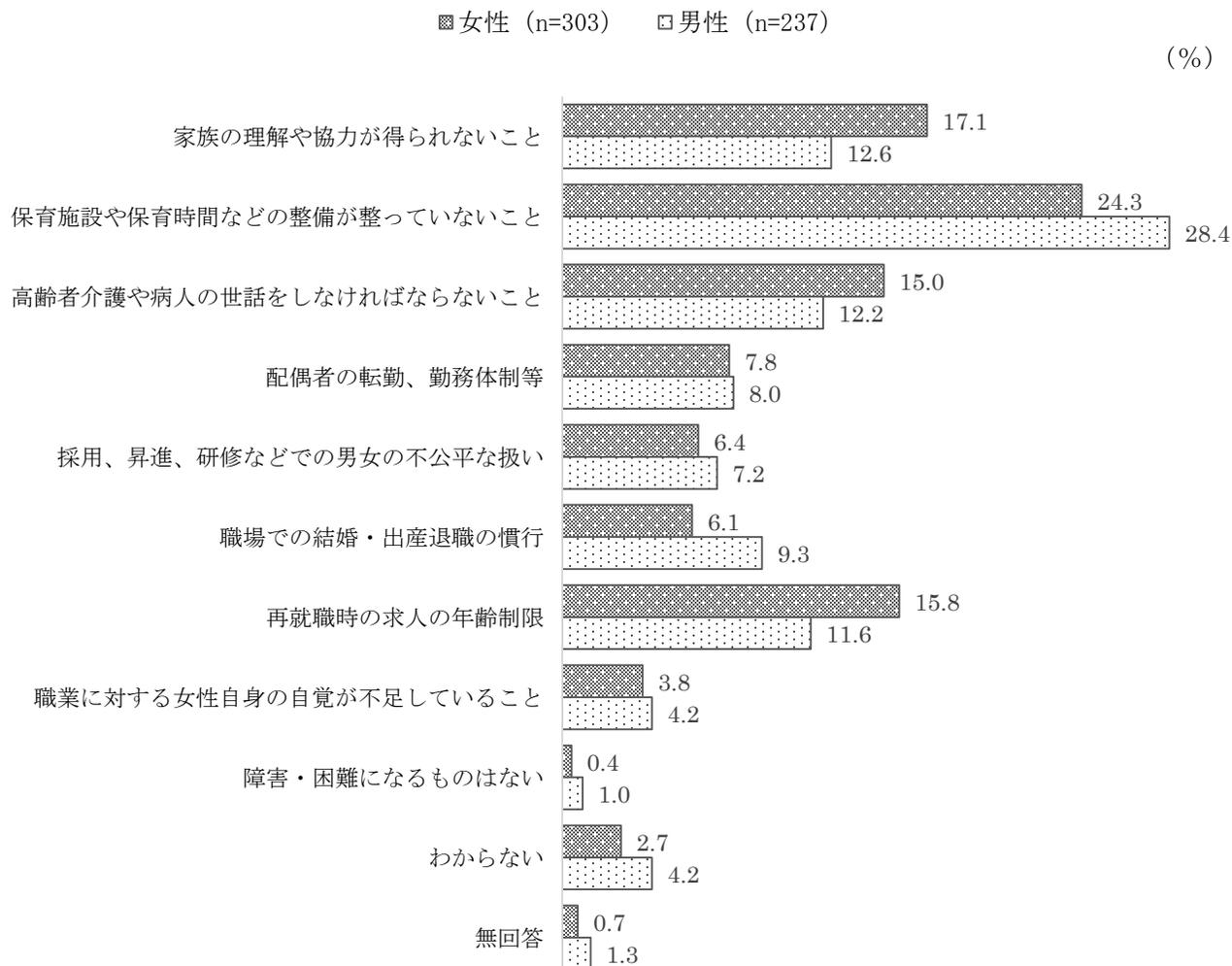
本来の選択肢	再定義した選択肢
女性は職業をもたない方がよい	無職型
結婚するまでは職業をもつが、結婚したら辞めた方がよい	結婚退職型
子供ができるまでは職業をもつが、子供ができたなら辞めた方がよい	出産退職型
子供ができて、ずっと職業をもち続けた方がよい	結婚退職型
子供ができたなら辞めるが、子供が成長したら再び職業をもつ方がよい	無職型

【その他】を選択した方の意見

- ・すべての選択肢を、すべての女性が自由に選べる社会であるのがよい。
- ・個々の意思が最大限に尊重されれば、どちらでもよい。
- ・不妊治療と仕事が両立されるべき（子供ができなかったとしても）。
- ・家庭によって、働き方は様々でよい。
- ・各個人の経済状況や職種により違うと思うので、働きたい人が働ける状況を作ることが大切だと思う。

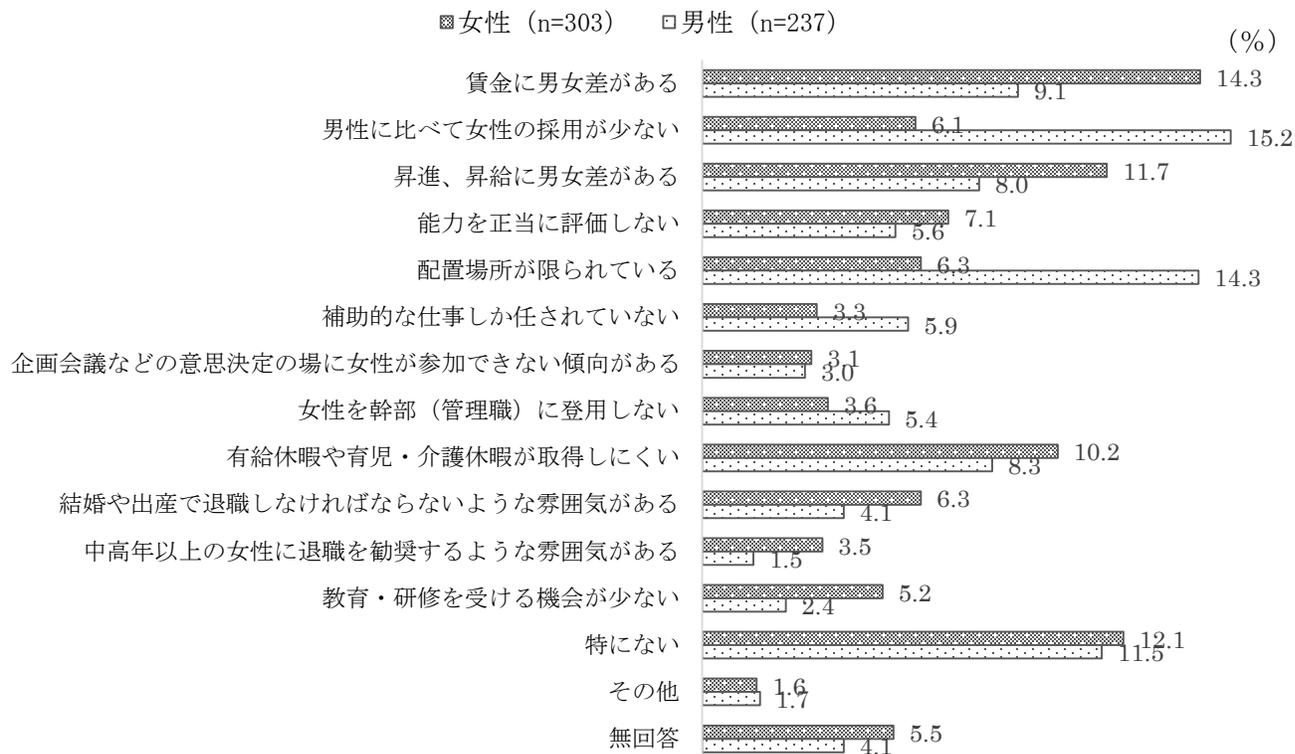
2 女性が職業を続けるうえでの障害

男女ともに、【保育施設や保育時間などの整備が整っていないこと】が最も高く、次いで【家族の理解や協力が得られないこと】が高くなっています。その他【高齢者介護や病人の世話をしなければならないこと】、【再就職時の求人の年齢制限】も高くなっています。



3 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面の差別

女性では「賃金に差がある」、「昇進、昇給に男女差がある」が高く、男性では「男性に比べて女性の採用が少ない」、「配置場所が限られている」が高く、女性の倍以上になっています。

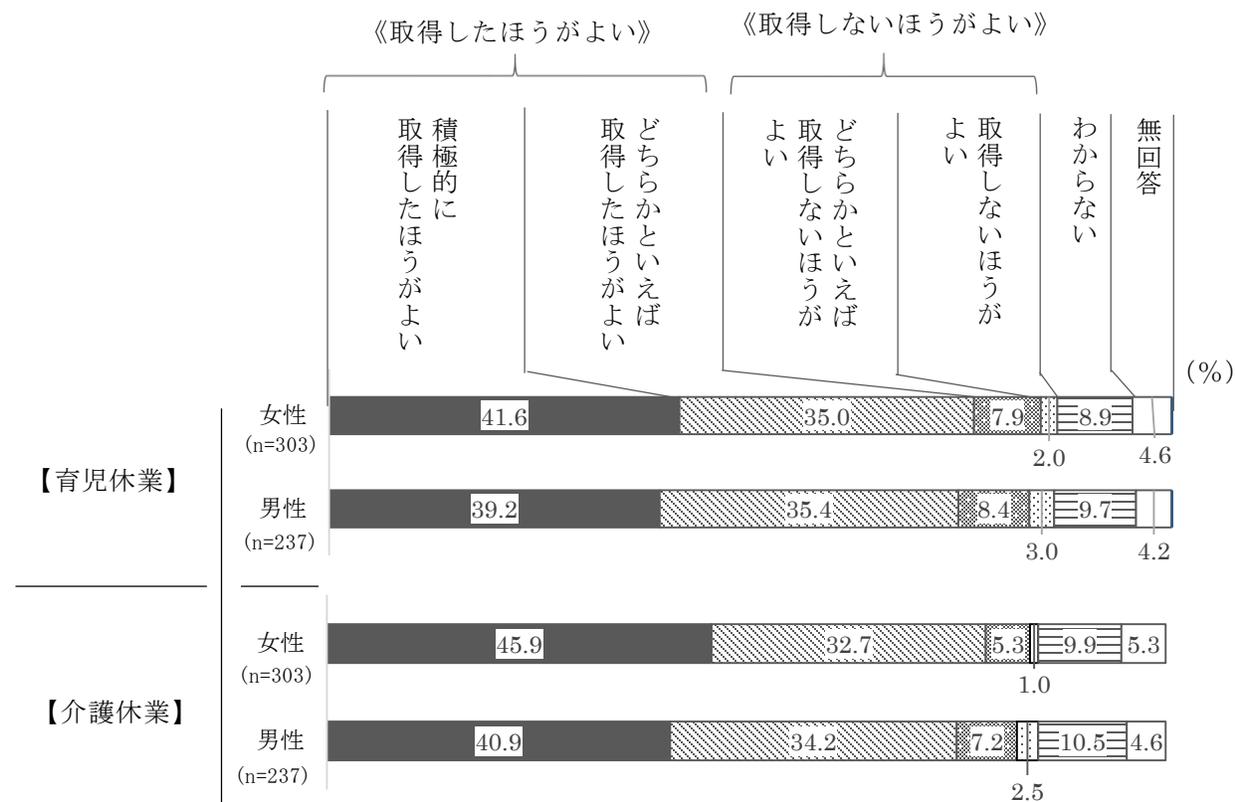


【その他】を選択した方の意見

- ・職種によるので、何でも同じ様にはできない。
- ・男性の多い職場で女性への嫌がらせがある。
- ・公務員だったため、男女差はないような気がしていた。
- ・デパートに勤めていた時、特に年代の高い世代で管理職などについている方ほど、女性を同等と扱うことが浸透していないように感じる場面があった。
- ・上司の好みによる、ひいき。
- ・子育て等を優先する方は、退職していた。
- ・力仕事が多いので、事務系になってしまう。
- ・「生理休暇」はあっても、上司が男性だと申請しづらい。結局「欠席」扱いとなってしまう（有給も事後申請はとれない）。
- ・総合職でも一般職の男性に対して補助をさせられる。一般職の女性がやるお茶だしを年が下だと総合職でもやらされる（男性総合職はやらされない）。

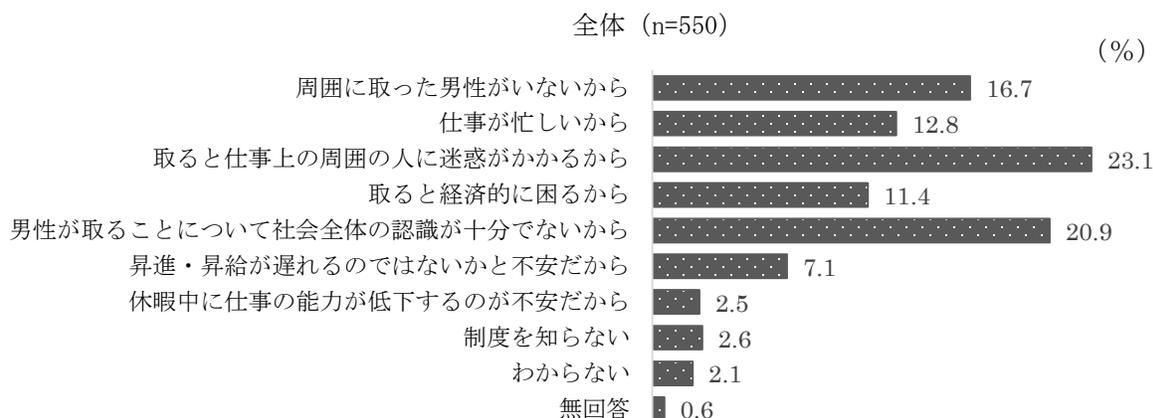
4 男性の育児休業や介護休暇の取得

【育児休業】は《取得したほうがよい》は男性が74.6%、女性が76.6%となっています。
 【介護休業】は《取得したほうがよい》は男性78.6%、女性が75.1%となっています。男女ともに《取得したほうがよい》が過半数を超えています。



5 男性が育児休業・介護休業を取得しない理由

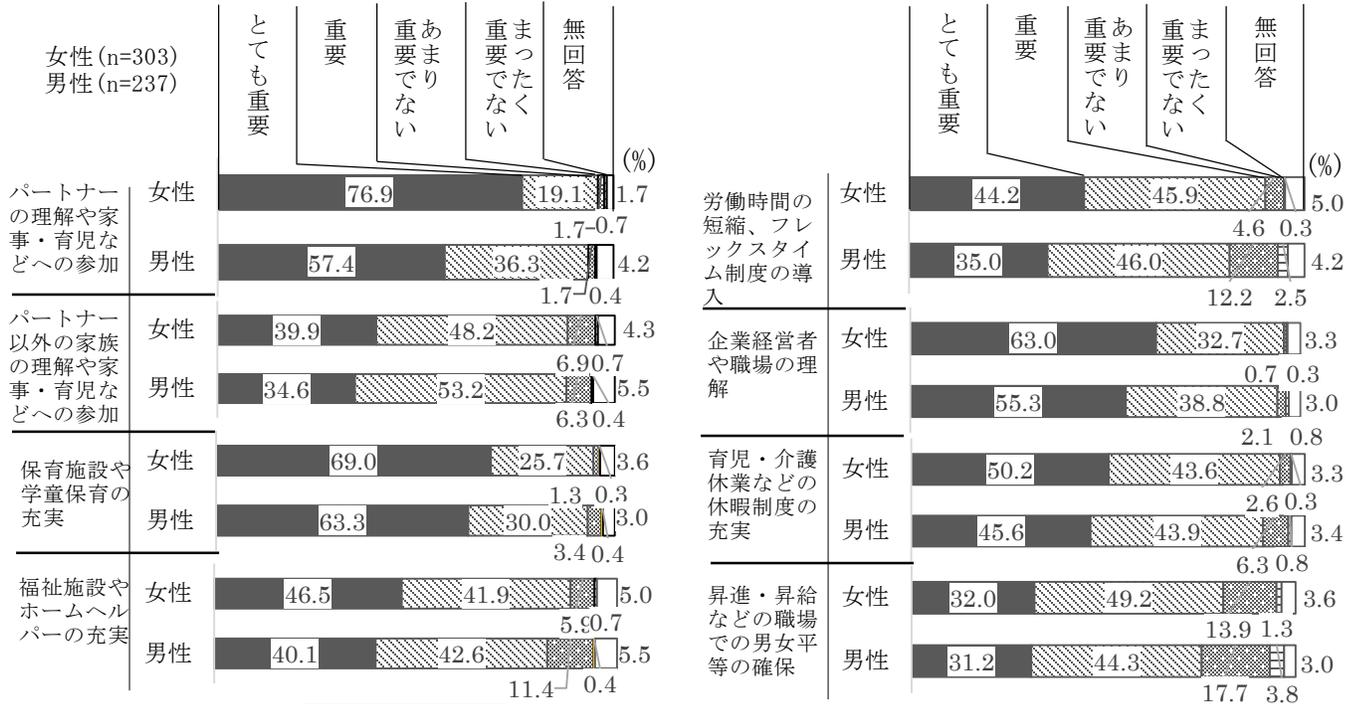
【取ると仕事上の周囲の人に迷惑がかかるから】が最も高く、次いで【男性が取ることに
 ついて社会全体の認識が十分でないから】となっています。



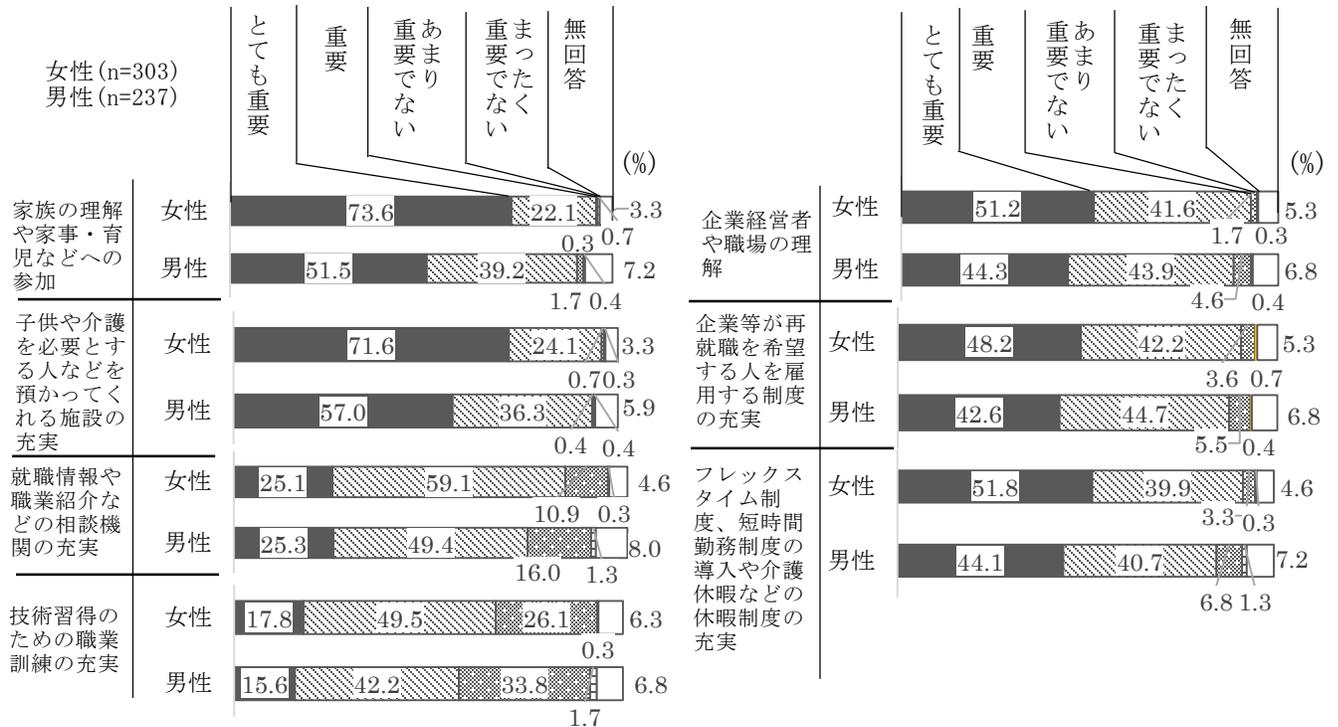
6 女性が結婚・出産後も働き続けるためや再就職するために重要なこと

退職せずに働き続けるために「とても重要」なことは、女性は【パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加】が最も高く、男性は【保育施設や学童保育の充実】が最も高くなっています。また、結婚・出産後に再就職するために「とても重要」なことは、女性は【家族の理解や家事・育児などへの参加】が最も高く、男性は【子供や介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】が最も高くなっています。

(1) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

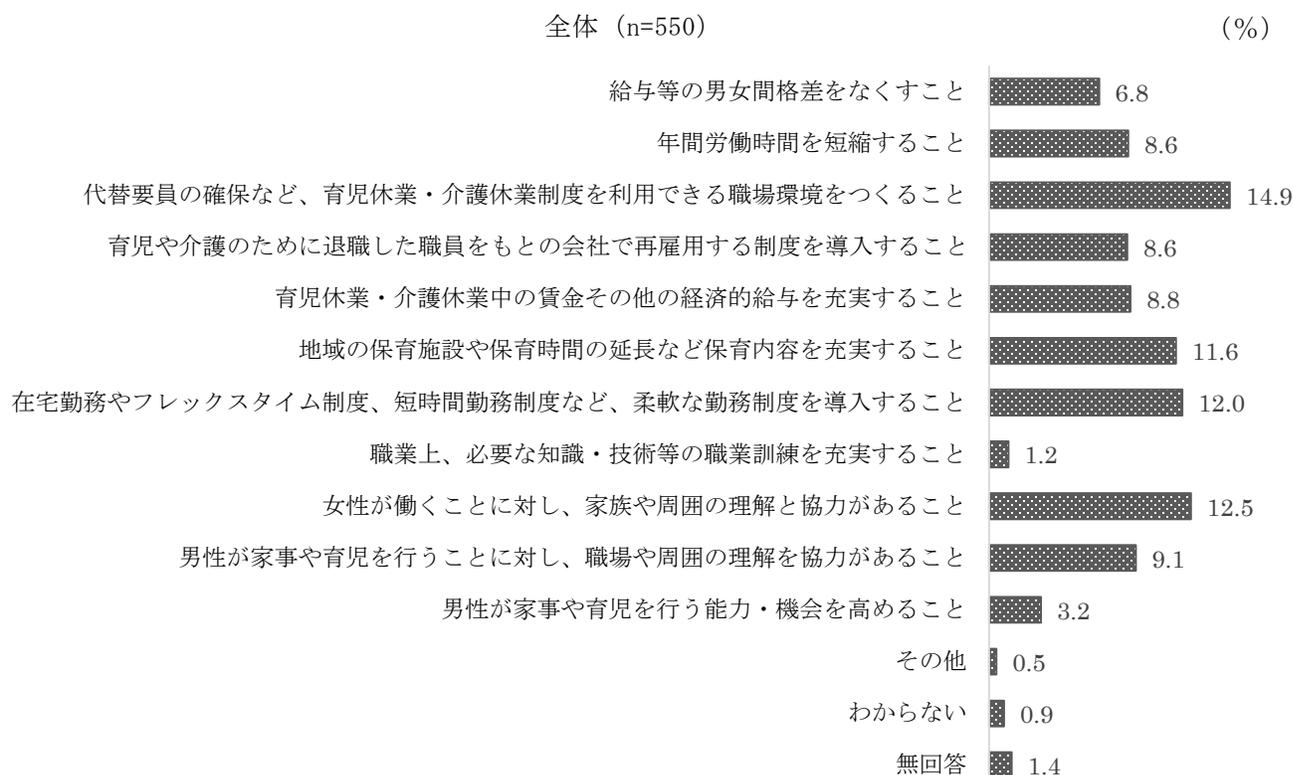


(2) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと



7 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件

【代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること】が最も高くなっています。



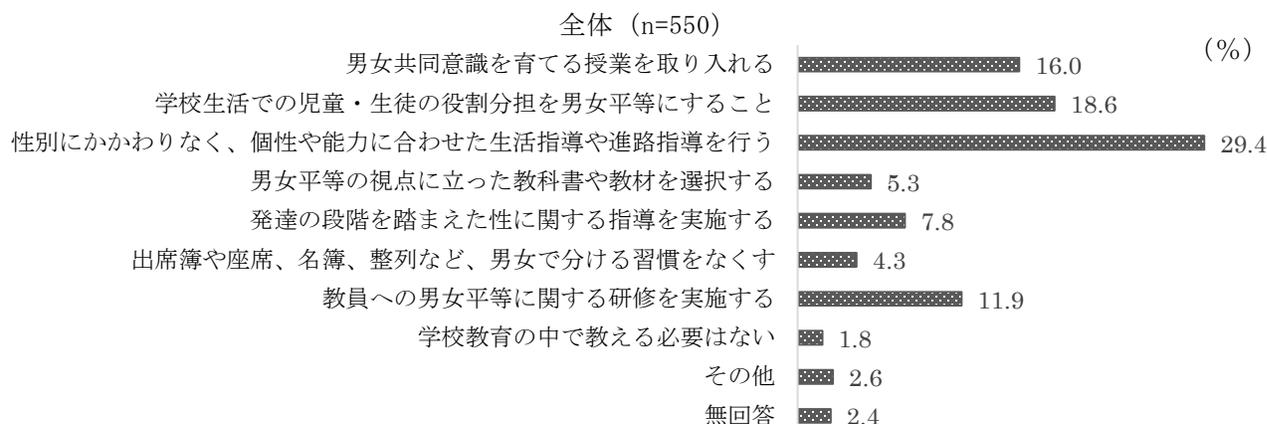
【その他】を選択した方の意見

- ・ 選択肢のすべての事。
- ・ 何の為に働くかを本人が自覚しないとどんな法律があっても仕方ないと思う。
- ・ 企業に負担を押し付けるのではなく、行政がかかわる事。
- ・ 男性が各種制度を使いしやすくする環境づくり（法律、条例）。
- ・ 家庭次第で家庭の問題。
- ・ 家庭の仕事に対して、社会に出ているのと同様にパートナーが一番に理解してくれる事。そして、女性が社会進出することはあくまでも家庭の為であると感じてほしい。

4 学校教育について

1 学校で男女平等教育を進めるために取り組んでほしいこと

【性別にかかわらず、個性や能力に合わせた生徒指導や進路指導を行う】が最も高く、【学校生活での児童・生徒の役割分担を男女平等にすること】、【男女共同意識を育てる授業を取り入れる】、【教員への男女平等に関する研修を実施する】が1割以上となっています。



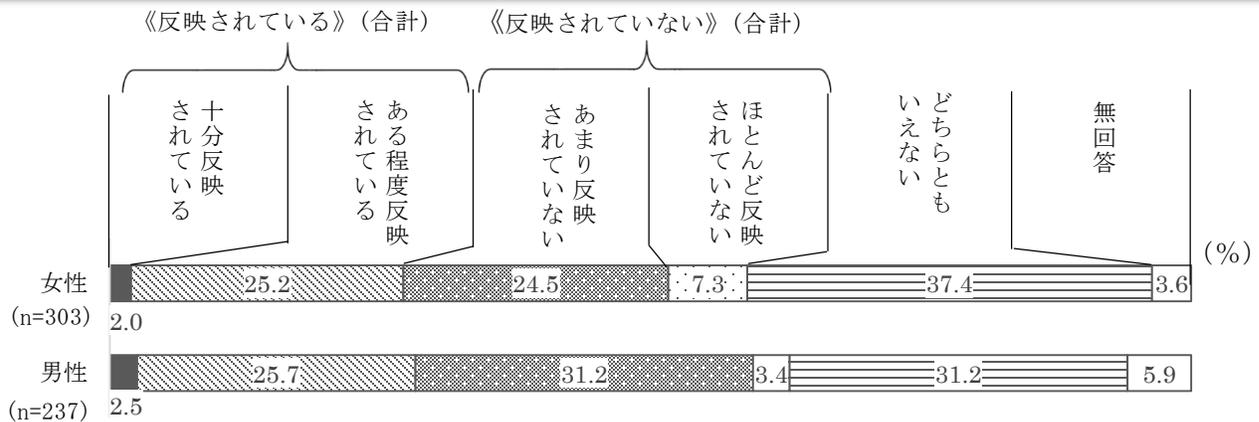
【その他】を選択した方の意見

- ・「〇〇教育」ということで、何でも学校教育に入れていくのはいかがなものか。本来は、家庭・地域で行うべきものではないか。でないと、学校現場が対応しきれない。学校が学力向上に専念できる環境づくりをすべきであるとする。
- ・男女平等といってもできる事、できない事があるので、表面上の平等には反対。
- ・男女平等も必要だが、それぞれの役目（適した能力）を教える事も必要だと思う。
- ・教員の教育のやり直し。
- ・自分で疑問に思ったことを自分の言葉で誰かに伝えられる、疑問をもつ周囲の環境を自身で変えていける認識を持てる教育を進めてほしい。
- ・家庭や地域への男女平等意識を持ってもらうための配信。
- ・学校ではなく、企業中心に男女平等の教育をしなくてはならないのでは。
- ・男女平等であっても、男性らしさ、女性らしさを教える授業。
- ・男女平等といえど本当に平等になることはできないと思うので、理想と現実は違うという意味のもと、平等を模索する様な指導。
- ・無理に男女平等を訴えると、逆に男女不平等に見えてくる。自然にしている方がよいと思う。
- ・男女は社会の中で平等に扱ってほしいが、生活の中では男女は違うことも沢山あるので臨機応変にしてほしい。
- ・男女の差別はいけませんが、男女の区別は必要。そこを考えて教育が必要。
- ・男・女の別をしっかりと教育すること。男女の別をしっかりと理解することで初めて男女の平等を考え、実践することができるのではないか。
- ・今の学校教育で上記の事はすでに取り組んでいないのだろうか。
- ・父・母の生活状況を考えさせる。
- ・働く事の意義・家事能力の必要性を理解させる。

5 社会参加について

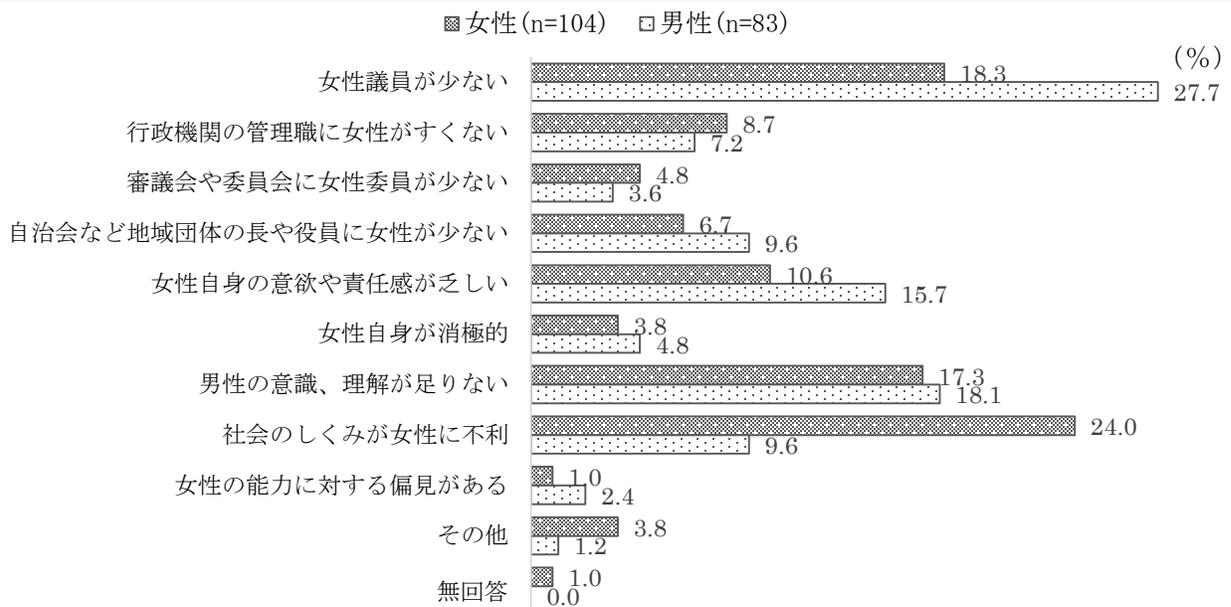
1 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度

男女ともに《反映されていない》(合計)が、《反映されている》(合計)を上回っています。



2 女性の意見や考え方が反映されていない理由

女性は【社会のしくみが女性に不利】が最も高く、男性は【女性議員が少ない】が最も高くなっています。

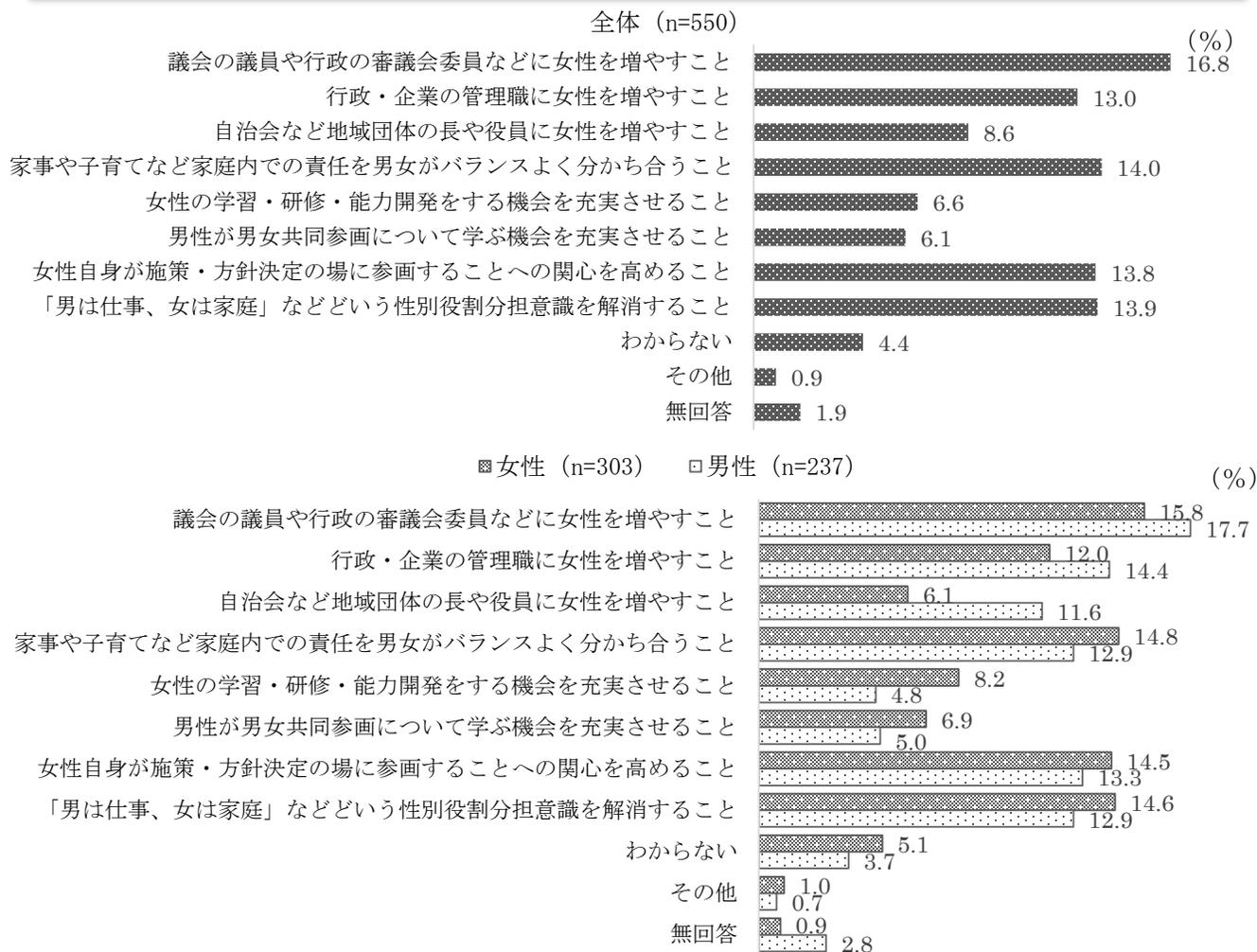


【その他】を選択した方の意見

- ・学校行事で父親参加が少なく、母親が参加できないことに引け目を感じ、父親も参加しにくくなっている。
- ・女性が働きやすい社会になっていない。
- ・社会（地方自治体）での考えそのものが男性基本の考えだから。
- ・反映されているのかいないのか、わかりにくい。
- ・男性主導の構図がなくならないため。

3 女性が政策・方針を決定する場に進出するために必要なこと

全体・性別ともに【議会の議員や行政の審議会委員などに女性を増やすこと】が最も高くなっています。男性は【自治会など地域団体の長や役員に女性を増やすこと】が女性のほぼ倍の数値になっています。



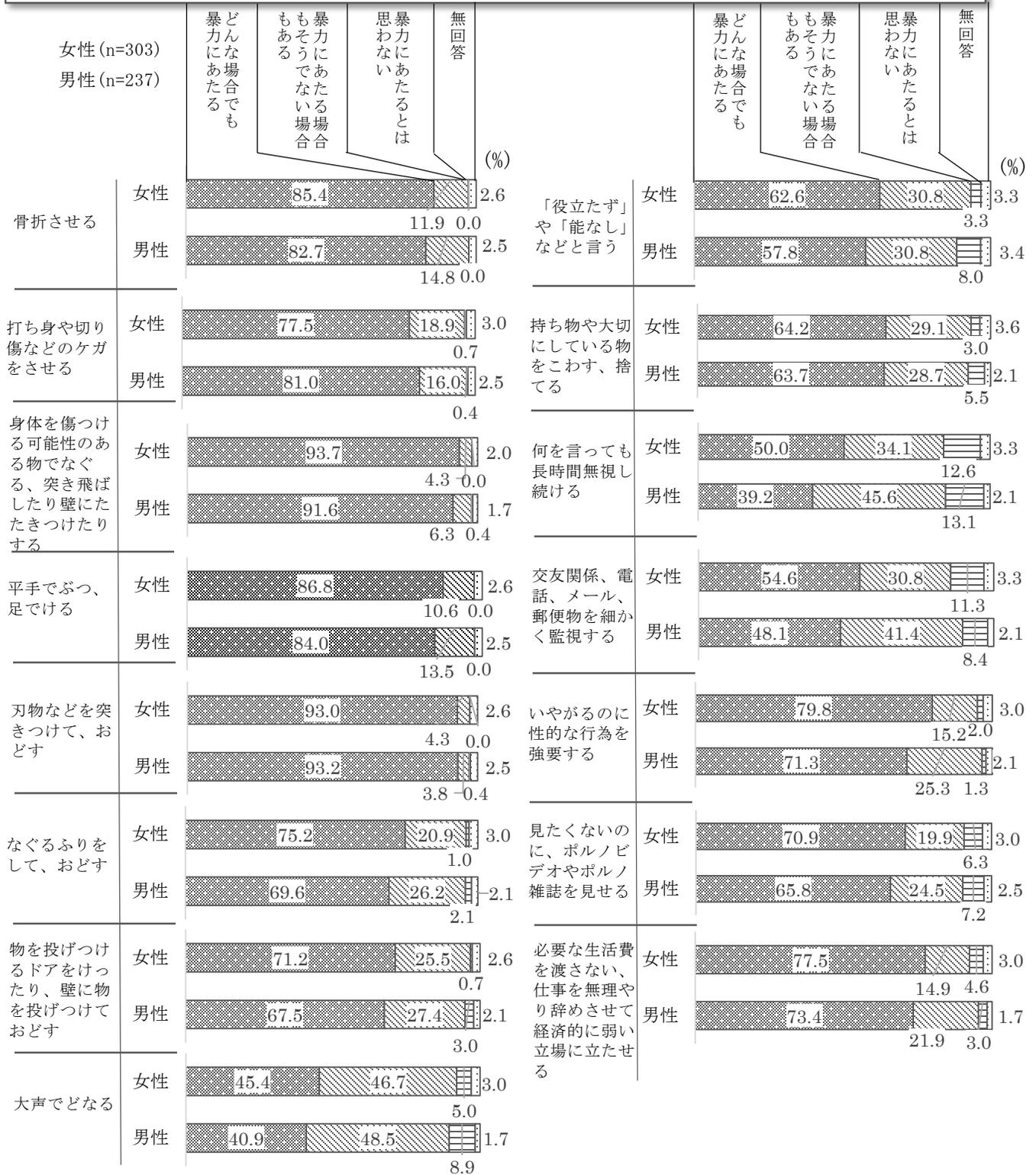
【その他】を選択した方の意見

- ・女は出すという風潮がある。
- ・実力がものをいう社会にすればいい。性別ではなく、能力が備わっているかが重要。
- ・このアンケートのように、主婦層へ参画する意欲を上げる（在宅参画）。
- ・男性が「女性が進出する為に何が必要か、どうすれば良いか」を考えること。少数の女性から「もっと増やすには」と考えても「男性社会」で消されてしまう。
- ・政治に関わる男性こそ家事・育児にたずさわること。当事者にならないと改善は望めない。
- ・進出にあたって、今できる事を一生懸命することが大事で、決定する場に進出するには、このような事に興味をもつ事だと思う。
- ・女性が社会に参加しようという意識を高めること。
- ・学校生活の中で、女性が消極的にならないようにする。

6 暴力について

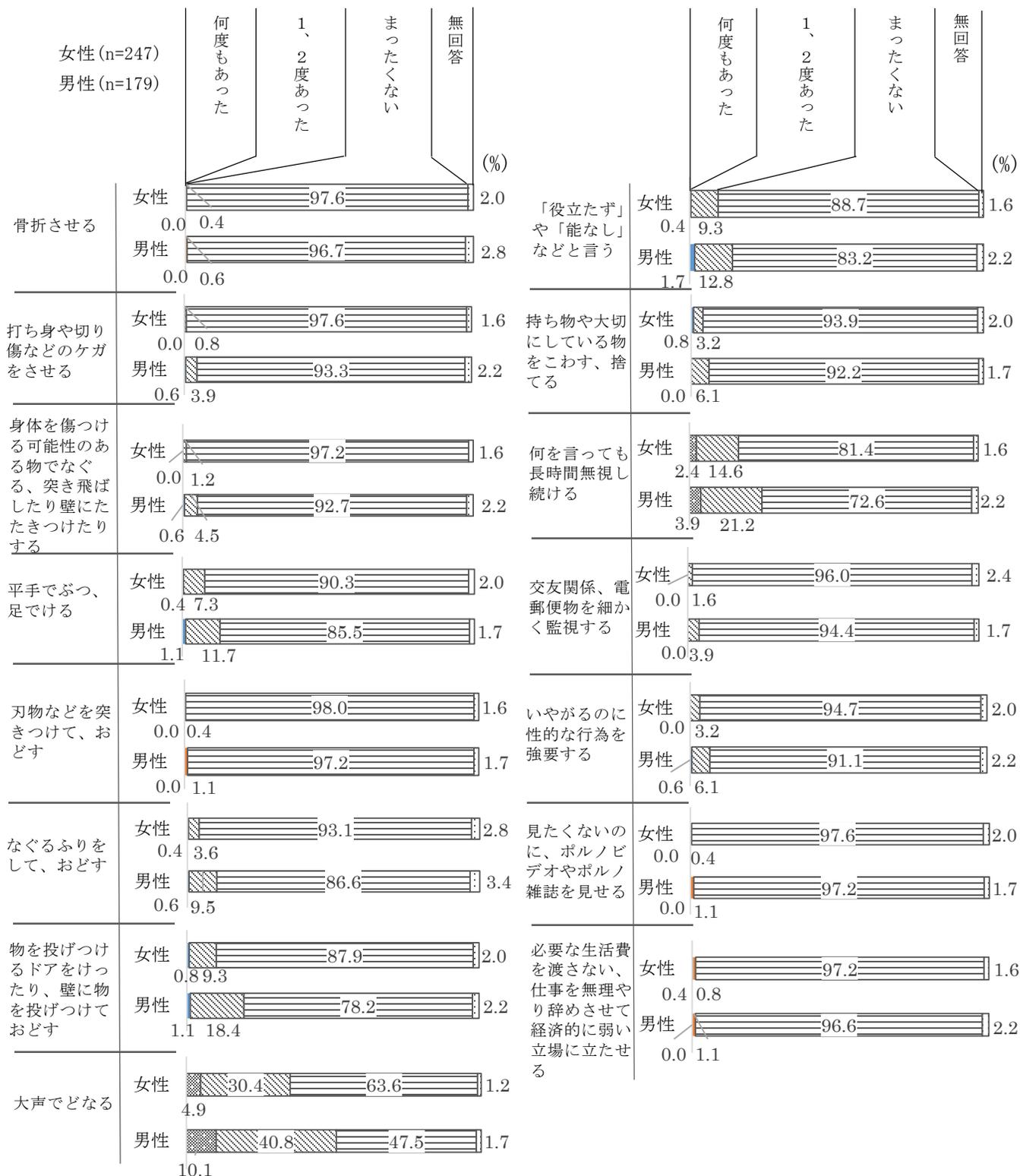
1 夫婦間の暴力と認識される行為

男女ともに身体に対する行為では、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたる」が高くなっています。【何を言っても長時間無視し続ける】では、女性のほうが10.8ポイント高く、暴力に対する認識の差が大きくなっています。



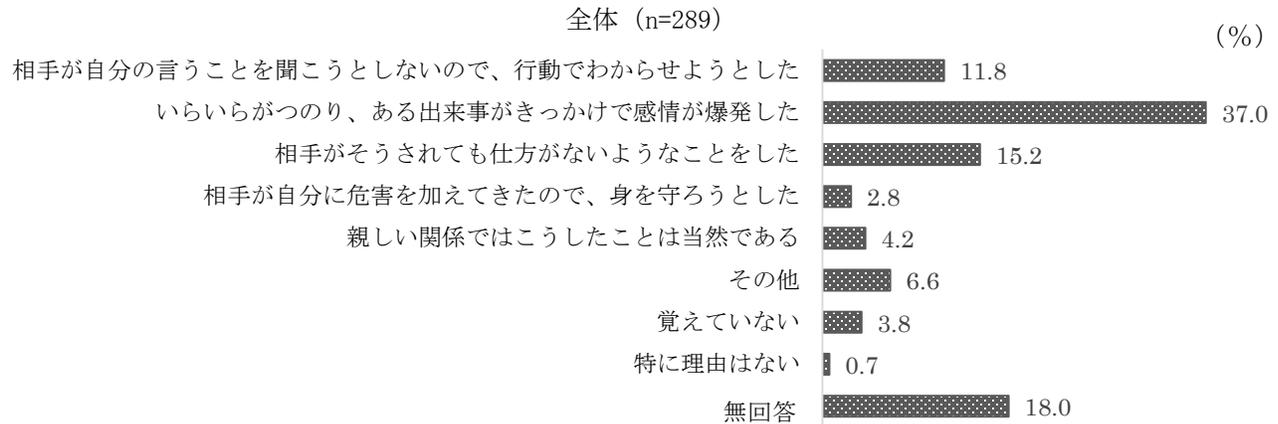
2 配偶者からの加害経験の有無

男女ともに、【大声でどなる】が最も高く、次いで【何を言っても長時間無視し続ける】が高くなっています。



<加害行為に至ったきっかけ>

きっかけは、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高く、次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」となっています。

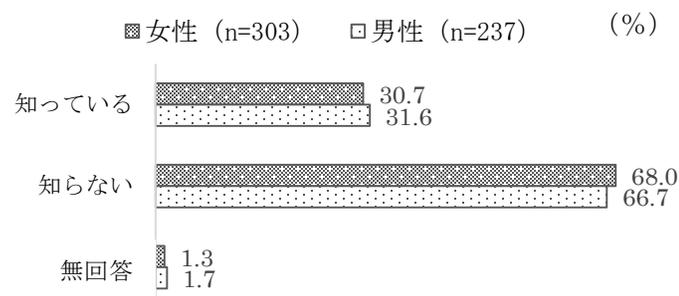


【その他】を選択した方の意見

- ・話し合い不足。お互い相手が嫌に思う事だと言にくい。
- ・お互いに若かったからだと思う。
- ・相手がそういう事をしてきたから。
- ・単なる夫婦喧嘩。
- ・些細な事でだと思う。
- ・必要だから。
- ・冗談で。
- ・「子供がほしい」と言いながら、不妊治療に全く協力をしようとしなかったため。
- ・何度話しても同じだったので、一度無視してお互いに落ち着いてほしかったため。
- ・自分のことをわかってもらえず。
- ・やるべき事を全くしない。
- ・話し合いにならなかった。

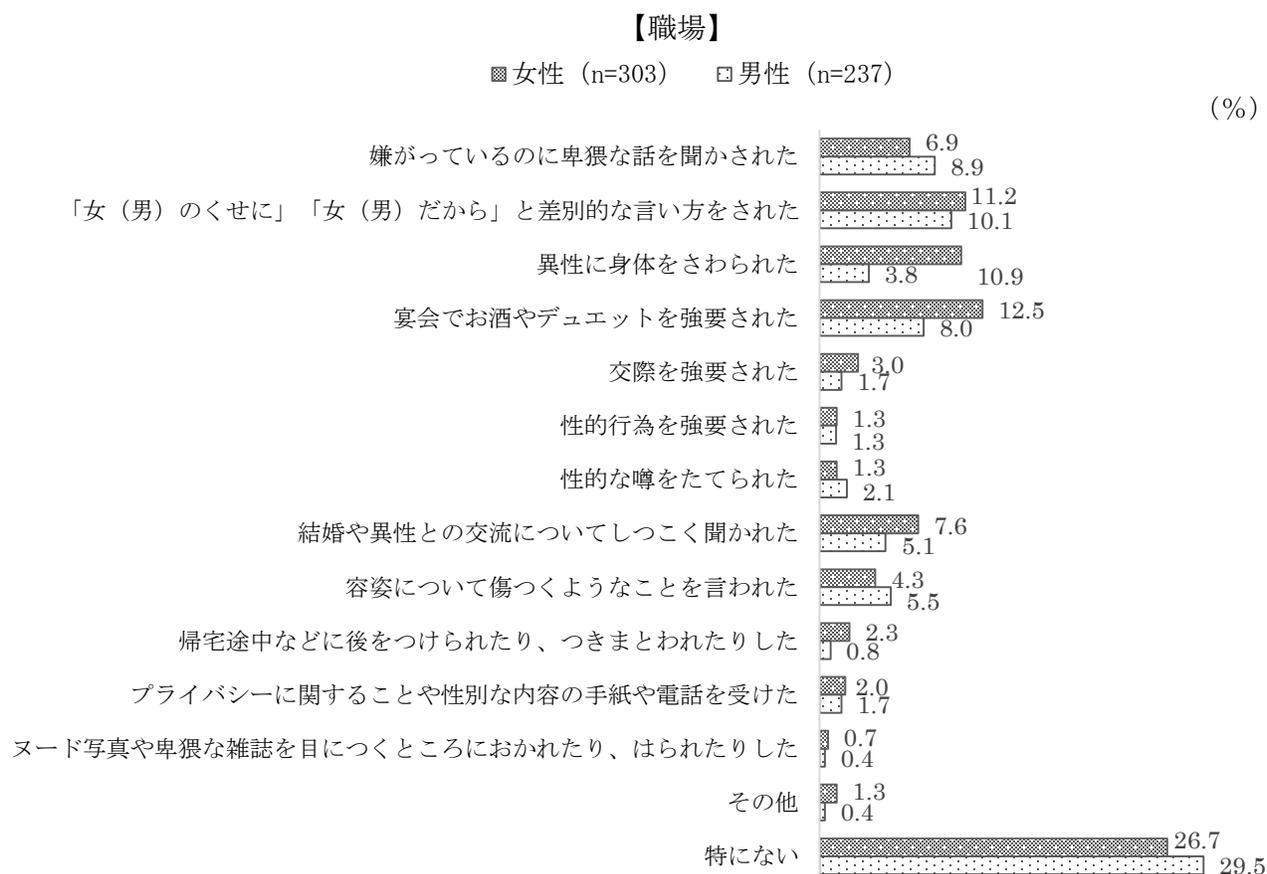
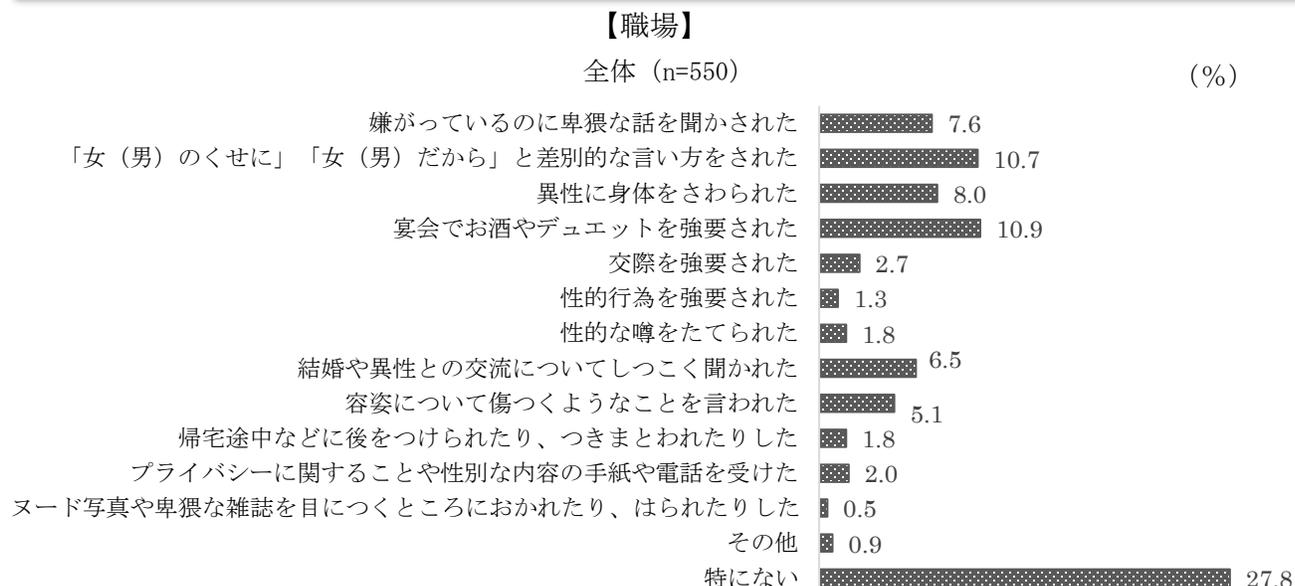
3 配偶者からの暴力について相談できる窓口の認知

配偶者からの暴力について相談できる窓口を知っている方は約3割となっており、男女ともに「知らない」が7割弱で多くの方が相談できる窓口を知りません。



4 不愉快な行為の経験の有無

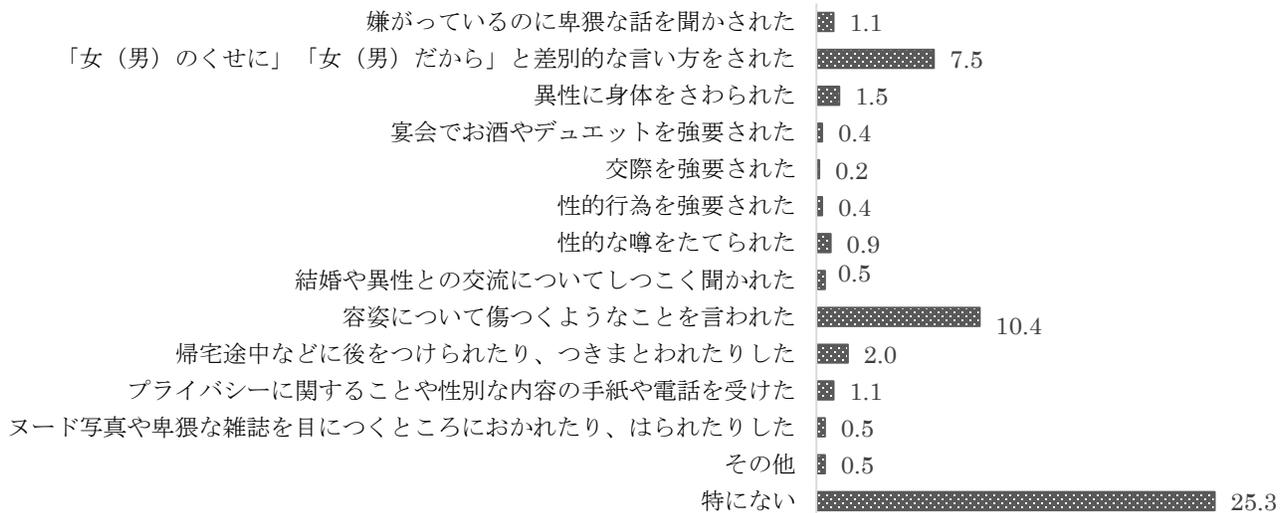
職場において、不愉快な行為を経験することが多く、職場・学校・地域の全ての分野において、【「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた】が高くなっています。性別でみると、女性のほうが男性より不愉快な行為を経験しています。



【学校】

全体 (n=550)

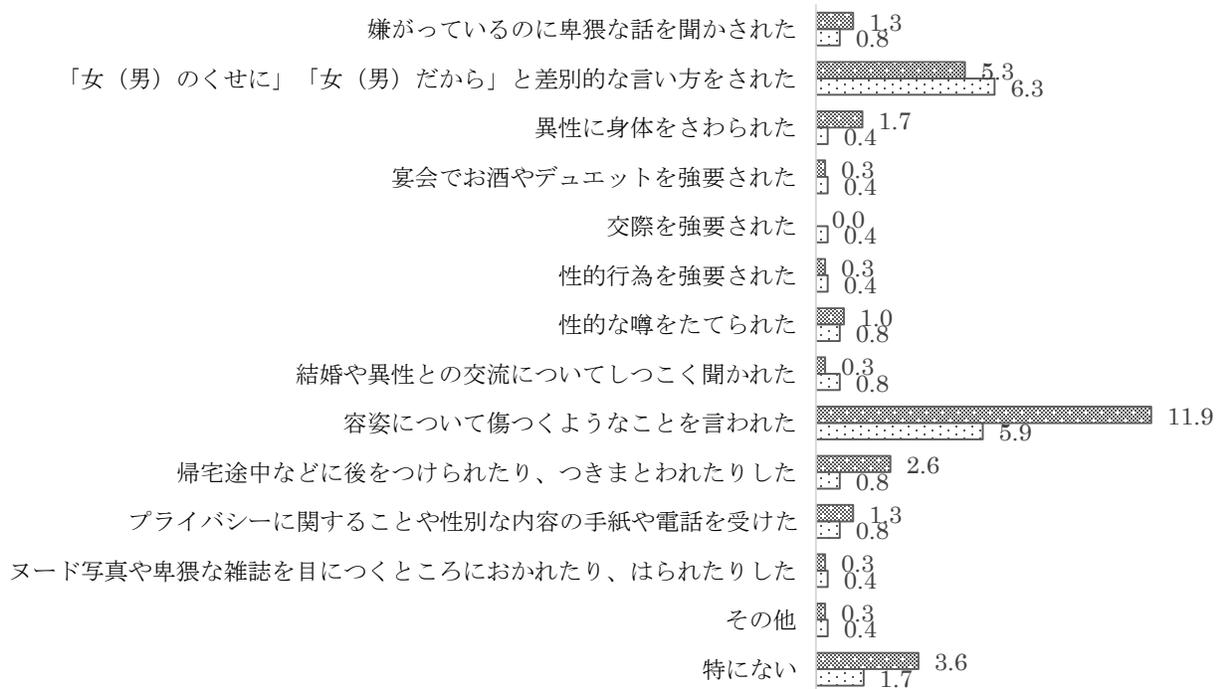
(%)



【学校】

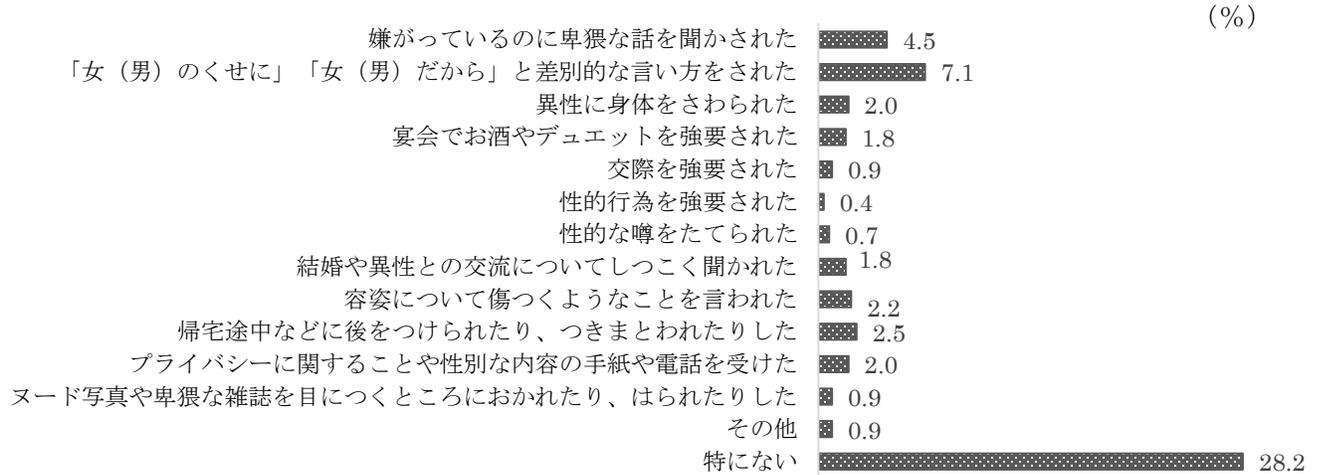
■ 女性 (n=303) □ 男性 (n=237)

(%)



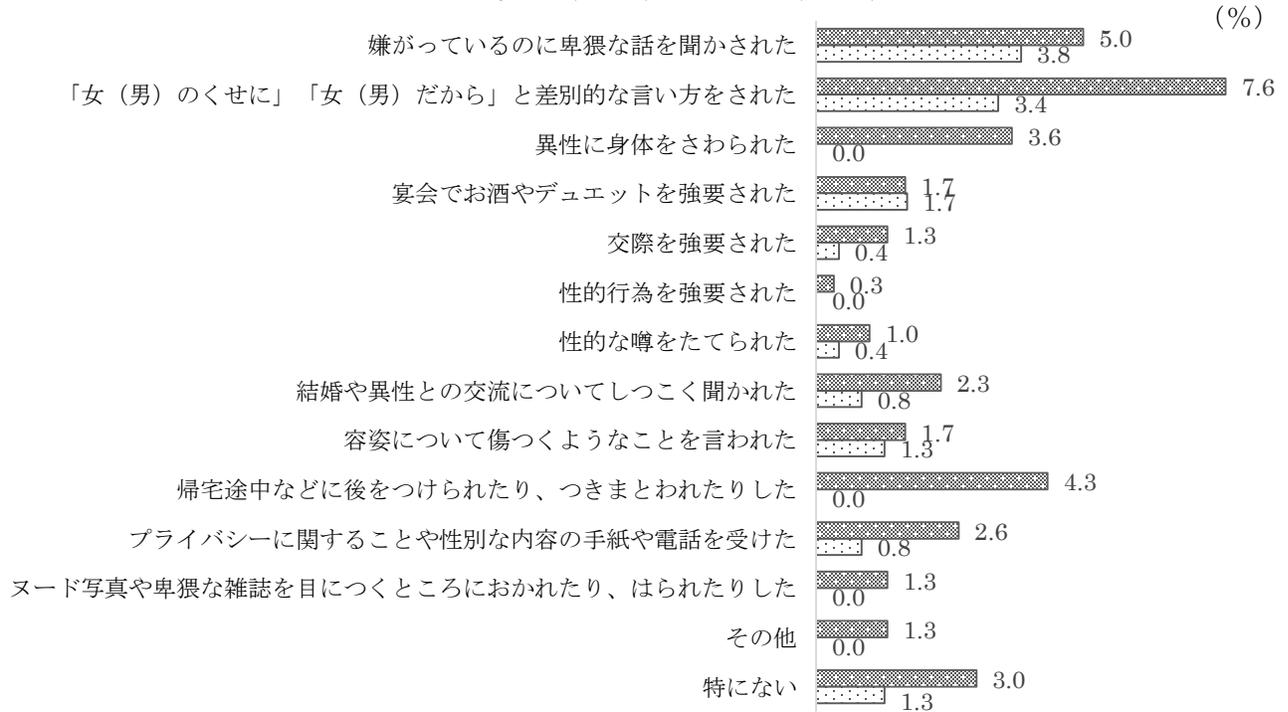
【地域】

全体 (n=550)



【地域】

■女性 (n=303) □男性 (n=237)



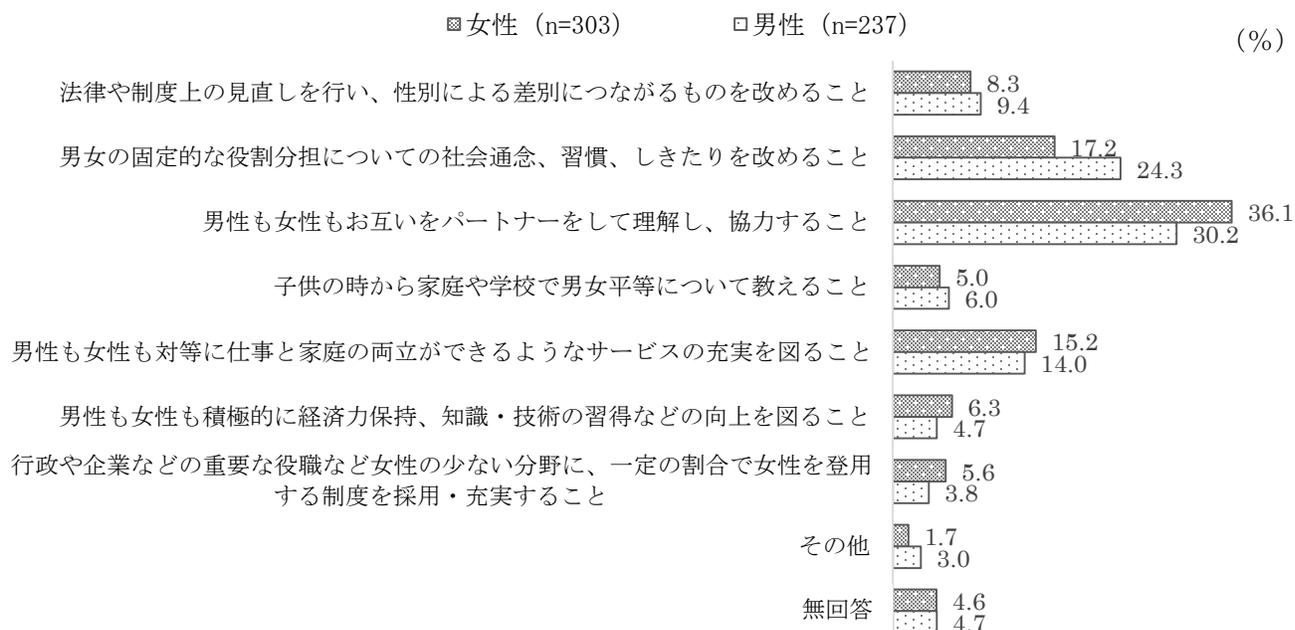
【その他】を選択した方の意見（職場、学校、地域）

- ・ 就労していることについて嫌味を言われた。
- ・ 車で後をつけられた。
- ・ 「女に注意された」と暴力を受けた。
- ・ のぞきをされた。
- ・ いじめ（仲間はずれ、家庭の事情を悪く言う等）。
- ・ からかい。職場でどなられる。
- ・ 上司がこわくて有休がとれない。

7 男女共同参画の推進に対する施策について

1 社会のあらゆる分野にバランス良く積極的に参加していくために必要なこと

男女ともに、【男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること】、次いで【男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること】、【男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること】が高くなっています。



【その他】を選択した方の意見

- ・夫婦別性。
- ・「差別」はあってはならないが、性差や個性による「差別」があるのは、ある程度やむを得ないのではないか。
- ・周囲の理解。
- ・女性自身の意識改革も必要。
- ・参画しやすい仕組みを整える。
- ・何が男女平等なのかを教える（男女平等とはどういうことか）。
- ・性別にとらわれず、あらゆる分野に興味を持つこと。
- ・人種、生物的に女性の方が家の事に目が届くかといって、男性が家の事をやらないのはと別である。
- ・夫婦共働きで、裕福に幸せな家庭を築きたかったから。
- ・共働きの方が世帯収入が増えるから。
- ・育児のための短時間労働などの充実。
- ・法律や行政や企業に文句を言う前に、他力に頼らず自律すること。
- ・人間としては平等は必要だが、子育て時期は性差がつきまとうため平等という条件は厳しい。性差を考慮する必要がある。
- ・個々の考え方がみんなそれぞれだから、それを共有するのはできないと思う。自分自身で見分けをつけていくしかないのかと。

- ・家庭の仕事に対して、社会に出てのと同様にパートナーが理解してくれることが大事だと思う。
- ・小さいことから（学校を含め）男女の平等な参画状況を作っていく。

2 男女共同参画に関する社会の動きや言葉の認知度

【セクシュアル・ハラスメント】、【DV（ドメスティック・バイオレンス）】は、内容を知っている割合が高くなっています。しかし、その他については、内容を知っている割合が低くなっています。

